

表4 宗教改革への反応（6類型）

	プロテスタントの地上成分 聖職者の権威を否定（自由と平等） →高い識字率が前提 カトリックの地上成分 聖職者による独占（権威と不平等）		プロテスタントの天上成分 予定説（権威と不平等） →直系家族の価値観と一致 カトリックの天上成分 非予定説（自由と平等） →平等主義核家族の価値観と一致		正統派プロテスタント 聖職者の権威否定 予定説 正統派カトリック 聖職者の独占肯定 非予定説	神の権威の強さ： 直系家族（権威と不平等）が最強、平等主義核家族（自由と平等）が最弱 脱宗教化の時期：信仰の強弱と種類が関係。プ（聖書読む）は進化論で全滅。	
	地上的条件 ・識字率 ・心理的距離	地上成分（①）	天上的条件 ・家族システム	天上成分（②）	信仰 （①+②）		脱宗教化（時期・精神的負担）
(1)ドイツ スイス	・識字率高	聖職者の権威を否定（自由と平等）	直系家族（権威と不平等）	予定説（権威と不平等）	正統派プロテスタント	強	普通・困難
(2)スウェーデン スコットランド	・識字率低 ・ドイツに近い	聖職者の権威を否定（自由と平等）	直系家族（権威と不平等）	予定説（権威と不平等）	正統派プロテスタント	強	普通・困難
(3)フランス イタリア スペイン ベルギー	・識字率高 ・ローマに近い	聖職者の独占を是認（権威と不平等）	平等主義核家族（自由と平等）	非予定説（自由と平等）	正統派カトリック	弱	早い・容易
(4)南イタリア	・識字率低 ・ローマに近い	聖職者の独占を肯定（権威と不平等）	平等主義核家族（自由と平等）	非予定説（自由と平等）	正統派カトリック	弱	早い・容易
(5)イギリス デンマーク ネーデルラント	・識字率高 ・ローマから遠い	聖職者の権威を否定（自由と平等）	絶対核家族（自由と非平等）	アルミニウス説（自由）	修正プロテスタント（急進的自由主義）	弱	普通・容易
(6)アイルランド ポルトガル ドイツ南部山岳	・識字率低	聖職者の独占を肯定（権威と不平等）	直系家族（権威と不平等）	非公式に予定説に接近	反動的カトリック	強	遅い・困難
	*赤字は「信仰」との不一致。不一致は適応反応を呼ぶ。(2)の地域は急激に識字率を上げ、(3)は文化的発展を抑制する。		*天上成分の不一致は教義の修正を招く。(5)の地域は「自由」に合わせて、(6)の地域は「権威と不平等」に合わせて、それぞれ正統派の教義を修正。		地上・天上ともに自由の修正プロテスタントは、信仰活性化＝分裂・宗派の濫立		・平等主義核家族が最も早く信仰を捨てる。 ・神の権威（＝父の権威）が強い地域は精神的負担大。